

(様式1)

令和7年度 岩手県立大東高等学校 学校評価報告書

校長：大石 敦子

総括的な評価	本校教職員の生徒一人ひとりを大切にした教育実践により、達成指標を実現した。また、生徒・保護者対象の学校評価結果によると学校運営に肯定的な意見が多いことから、概ね満足していると推察される。 次年度は、比較的评价が低かった項目を中心に改善方を明確にし、学校経営力の一層の向上を図りたい。
--------	--

重点目標	達成指標	自己評価		学校関係者評価	改善方策
		評価項目及び実績等	達成状況		
ア 基礎基本の定着と主体的な学びの推進	・学校評価において、授業がわかりやすく、基礎基本が身につけられると感じている生徒の割合【80%以上】	・「授業がわかりやすく、基礎基本が身につけられる」と回答した生徒の割合【94%】	○	・少数であることを生かし、生徒一人一人に目を配り、手厚く指導をしている。 ・生徒の授業に向かう姿勢が良い。	・教員同士の授業参観や意見交換により、さらに授業力を高める。 ・ICTの有効活用や生徒の主体的な学びを実践するために工夫する必要がある。
イ キャリア教育の充実と生徒の進路希望の実現	・希望する進路目標を達成した生徒の割合【大学・短大等 90%以上、就職 100%】	・今年度の進路実績【大学・短大等 100%】【就職 100%】	○	・進路に関わる情報提供が適切である。 ・多くの教員が進路指導に携わっている結果が出ている。	・外部機関との連携をさらに強化する。 ・個々の進路希望に応じた指導を全職員で組織的に進めていく。
ウ 豊かな人間性と社会性の育成	・学校評価において、生徒会活動、委員会活動、部活動が活発に行われていると感じる生徒の割合【80%以上】	・「生徒会活動や委員会活動、部活動が活発に行われ、良い校風づくりをしている。」と回答した生徒の割合【92%】	○	・学校生活全てが学びの場であることを考えると良い傾向である。 ・「良い校風づくりをしている」ことを小中学生たちに伝えてほしい。	・生徒が自由に考えを表明できるような信頼関係を構築するとともに、主体的に活動できるよう、適切に助言したり支援したりするよう努める。
エ 「学校いじめ対策組織」の取り組みを中核としたいじめの未然防止と適切な対処	・心身の悩みの相談への対応に満足していると感じている生徒の割合【80%以上】	・「心身の悩みの相談への対応に満足している」と回答した生徒の割合【91%】	○	・不適應生徒や不安定でサポートが必要な生徒に対応できているものと思われる。 ・生徒の微妙な変化などを見逃さないよう見守ってほしい。	・いじめの早期発見のための調査を定期的に行い、生徒理解と情報共有に努める。 ・スクールカウンセラーや支援員と連携しながら組織的に対応するようさらに努める。

(様式1)

オ 地域活動への積極的な参加と地域に貢献する人材の育成	・学校や地域が行う体験活動やボランティア等に参加した生徒の割合【75%以上】	・学校や地域が行う体験活動やボランティア等に参加した生徒の割合【100%】	○	・ボランティア活動を積極的に行っていると感じている。地域住民として感謝したい。 ・ボランティア活動は将来に役立つので、引き続き積極的に取り組んでほしい。 ・中高連携の活動を期待したい。	・思いやりや社会性、協働する姿勢を育むなどといったボランティア活動の意義を伝えるとともに、地域団体と連携して活動機会を提供する。 ・生徒が活動を通して達成感や有用感を得られるよう、指導を工夫していきたい。
カ 生徒を個人として尊重し、不適切な指導のない体制の構築	・人と違うことが尊重される雰囲気があると感じている生徒の割合【80%以上】	・「個性やよさを認め、生徒一人ひとりを大切にした学級経営が行われている」と回答した生徒の割合【85%】	○	・少人数の学校では特に重要な目標であり、その目標が達成されていることは大変うれしく思う。 ・個性と規律のバランスを取りながら進めてほしい。	・こども基本法等への理解を深め、生徒の人権を尊重した教育を一層進めていく。 ・コンプライアンスを意識した言動を徹底する。